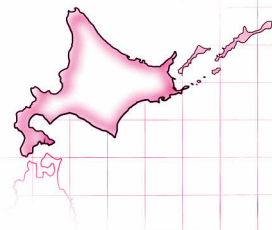


ペリフェリ ⑫



節目の力・与謝野さん

日本赤十字社 常任理事 渡邊 芳樹

政党の枠を超え政治中枢で活躍した政治家・与謝野馨氏。最初の出会いは特別だった。

オウム真理教退去後の施設撤去問題。内閣審議官として担当した1995年のことである。警察庁や防衛庁は役割が違うとし、上九一色村(当時)の特別振興策を策定し、特別交付税で撤去する案も戦後引揚者受入れの経緯から無理と山梨県に断られ宙に浮いていた。

ある時、阪神大震災で倒れたマンションを廃棄物処理法の災害等廃棄物として撤去した例を学び一筋の光を見出した。当時、同法所管の厚生省が嫌がるのは明らか。まずは省首脳に困難な事情を話し何とか理解を得た。後は大蔵省。直接頼み込んだのが与謝野馨内閣官房副長官だった。

出合い頭、急を要する本件をこなせなければ内閣は持たないと畳みかけ、御理解頂き直ちに主計局長に電話して対応させるよう要請した。大蔵・厚生両省担当幹部も渋々だが動いてくれ



た。人為的災害の廃棄物も災害等廃棄物の等に含まれるとして国庫補助を嵩上げし撤去できた。一部の化学兵器禁止条約関連施設もその後撤去された。

後日、親しくなった与謝野さん曰く、役人に叱られて仕事をしたのは、あれが初めてだったと嬉しそうに語った。

次は公的年金の財源問題。2008年日経新聞が基礎年金税方式化の年金制度改革案を打ち出した。私は年金局長として与謝野事務所を訪れた。また叱りに来たのかと笑いつつ丁寧な私の話を傾けてくれた。私は、「読売新聞も税方式に傾いていると聞く。大新聞が皆それでは

大変危うい」、「著名な読売新聞渡邊恒雄主筆は貴方の旧友なのだから説得して欲しい。読売独自の改革案をまとめてはどうか。税方式は長期にわたる膨大な経過的税負担が必要。現行社会保険方式を基本として限りある消費税を最低保障機能強化も視野に有効に活用すべき」と主張。与謝野さんは納得し、私の前で電話を掛けて先方の了解を取り付けた。

読売新聞の改革案が効を奏し社会保険方式を基本とし消費税を活用する流れとなった。

私は2009年法改正を手掛け暫定財源ながら初めて基礎年金2分の1国庫負担を実現し、本格的税制改正につなげた。与謝野さんが道を開いた社会保障・税一体改革による消費税引上げで2014年度から基礎年金2分の1国庫負担が恒久化された。

2017年5月他界されたが、政治家・与謝野馨さんの功績は大きかった。まさに節目の力として強く記憶に残っている。